

**製品名: D1DR ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09767**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	50kDa

**抗原情報**

遺伝子名	DRD1
別名	DRD1; D(1A) dopamine receptor; Dopamine D1 receptor
遺伝子 ID	1812.0
SwissProt ID	P21728
免疫原	抗血清はヒト DRD1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 135-184

**背景**

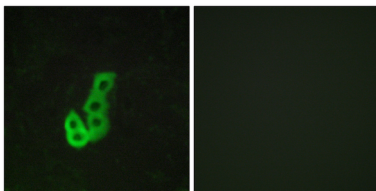
この遺伝子はドーパミン受容体の D1 サブタイプをコードします。D1 サブタイプは中枢神経系で最も多く存在するドーパミン受容体です。この G タンパク質共役型受容体は、アデニル酸シクラーゼを刺激し、サイクリック AMP 依存性プロテインキナーゼを活性化し

ます。D1 受容体は神経細胞の成長と発達を制御し、いくつかの行動反応を媒介し、ドーパミン受容体 D2 を介したイベントを調節します。転写開始部位が異なるため、この遺伝子には2つの転写バリエーションが存在します。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: これは5つのドーパミン受容体タイプ (D1~D5) の1つです。この受容体の活性は、アデニル酸シクラーゼを活性化する G タンパク質によって媒介される。、類似性: G タンパク質共役受容体 1 ファミリーに属する。、細胞内局在: 小胞体から細胞表面への輸送は、DNAJC14 との相互作用によって制御される。、サブユニット: DNAJC14 の C 末端を介して相互作用する (類似性による)。DRD1IP と相互作用する。、組織特異性: 尾状核、側坐核、嗅結節で検出される。、

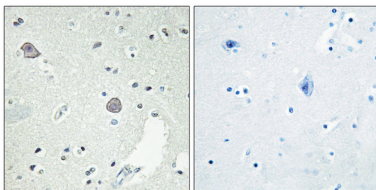
## 研究分野

カルシウム;神経活性リガンド-受容体相互作用;ギャップ結合;

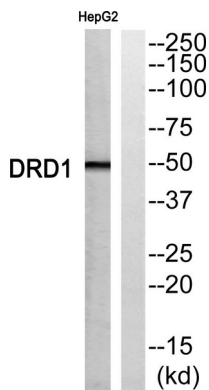
## 画像データ



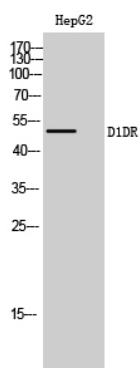
DRD1 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



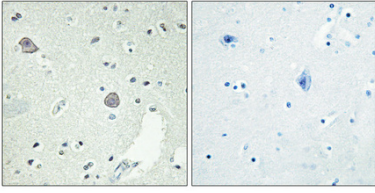
DRD1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



DRD1 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは DRD1 ペプチドでブロッキングされている。



D1DR ポリクローナル抗体を用いた HepG2 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。